

山陽小野田市健康づくり推進協議会議事録

会議の種類	平成24年度第3回山陽小野田市健康づくり推進協議会		
日時	平成25年2月28日(木) 18:00~20:00		
場所	小野田保健センター		
出席者	厚狭郡医師会	河村芳高	(会長)
	山陽小野田市社会福祉協議会	小柳朋治	(副会長)
	小野田市医師会	松岡彰	(委員)
	小野田歯科医師会	多原康成	(委員)
	厚狭歯科医師会	嶋田修士	(委員)
	小野田市薬剤師会	野村茂正	(委員)
	山陽小野田市ふるさとづくり協議会	杉本保喜	(委員)
	山陽小野田市老人クラブ連合会	平田武	(委員)
	山陽小野田市小・中学校PTA連合会	平山正男	(委員)
	山陽小野田市母子保健推進協議会	吉田由美子	(委員)
	山陽小野田市食生活改善推進協議会	半矢幸子	(委員)
	山口宇部農業協同組合	笹木伸子	(委員)
	山口県看護協会小野田支部	建石弘子	(委員)
	山口県栄養士会宇部専門部会	坪河蓉子	(委員)
	山口県歯科衛生士会小野田支部	村中洋子	(委員)
	(出席者数 15人)		
欠席者	山口県薬剤師会厚狭支部	松浦純一	(委員)
	山陽小野田市自治会連合会	藤田正人	(委員)
	山陽小野田市連合女性会	岡部つや子	(委員)
	(欠席者数 3人)		
オブザーバ	山口県宇部健康福祉センター	山崎千鶴代	
事務局	健康福祉部長 田所 栄	健康増進課長 兼本裕子	
	健康増進課技監 山根愛子	健康増進課課長補佐 深井 篤	
	健康増進課課長補佐 河野静恵	成人保健係係長 石井尚子	
	健康企画係係長 岡村敦子	健康企画係主事 竹森和貴	

1. あいさつ	健康福祉部部長あいさつ
2. 議題	
議長	市の健康づくりに活かせるよう、積極的に発言して頂きたい。
議長	(1) 第3回健康フェスタについて 事務局より、資料1の説明。
議長	来場者については女性の割合が高く、30、60、70代の来場者が多いということだが、来場者について何か意見等ないか
事務局	このデータは健康フェスタ来場者全てへのアンケート結果ではなく、フェスタに参加してアンケートに答えてくれた方のデータか。
事務局	そうである。65名の方に回答をいただいた。スタンプラリーの参加者が約420名であり、健康フェスタ全体では約500名の来場者があったと考えている。
委員	昨年、一昨年と比べてどうか。
事務局	昨年、一昨年とも来場者500名程度で大きな変化は無い。
議長	昨年、一昨年は目玉となる企画があった。今年度は大きな目玉企画が無いにも関わらず、来場者500名というのは健闘したといえる。
委員	実施したアンケートの中に、今後の希望を問う項目はあるか。
事務局	「フェスタで良かった企画はあるか」という項目はあるが、「今後どんな企画を希望するか」という項目は無い。
委員	30、60、70代の来場者が多かったということなら、この年代の方に今後希望する企画等をアンケートするべきだった。
委員	30代の来場者が多いのは無料フッ素塗布に子どもを連れてきた親だと考えることができる。
委員	フッ素の無料塗布は若い世代を呼び込むのに効果的だと感じる。
委員	「無料」というのがやはり良かった。
委員	今回の無料フッ素のような企画が来場のきっかけになる。
議長	無料フッ素塗布はどのように宣伝したのか。
事務局	広報、チラシ、健診、ロコミ等で宣伝を実施した。
議長	無料フッ素塗布は非常に好評のため是非25年度も実施してほしい。
委員	医師会の先生に講演を依頼すると良いのではないかと。身近な先生に講演をしてもらえると市民も安心感があり、来場につながると思う。
議長	費用の面から考えても身近な先生にお願いするのは良い。 宣伝方法として各出展団体のホームページに掲載して頂くと良い。
委員	「体力測定」を企画として取り入れてはどうか。ウォーキング等を実施して健康に自信がある高齢者に握力等を測定してもらい、自分の体力年齢を計測してもらおうと良い。
事務局	今年度も健康運動指導士会で体力測定は実施して頂いた。来年度は握力測定も実施してはどうかという意見が出た事を伝える。
委員	自分の体力年齢を知ることは自信になる。また、高齢者の運動のし過ぎ

議 長	ぎによる体調不良も防ぐことができる。良い企画になると思う。
委 員	来場のきっかけとして男性は広報、女性は家族友人等の口コミが多くを占めているのはなぜか。
事務局	アンケートの取り方に問題があるように感じる。子どもは来場しているにも関わらず、アンケートの結果では0人となっている。もっと幅広い世代に協力してもらえるアンケートの取り方、内容にするべき。 1,000人くらいはフェスタに来てもらうくらいの目標で取り組むべき。学校、大きな団体等への宣伝をもっと実施してはどうか。
議 長	アンケートは家族で1枚という実施方法をとったため、アンケートに「どなたと来場しましたか」「何人で来場しましたか」などの項目を入れる必要があった。全体的にサンプルが少ないと感じている。
委 員	来年は1,000人を目標に頑張っていきたい。 次は出展団体について何か意見等ないか。
事務局	出展団体よりもまずは来場者を増やす方が重要。口コミ等でのPRをしっかりとしていきたい。 他の団体の行事との重なりがあった。目玉企画等でしっかりPRして行く必要がある。
委 員	今年度の健康フェスタの日はPTA 連合会山口県大会が下関であった。11月は小学校、地域行事等のイベントが多い時期であり、出展団体を増やすことは難しいように感じる。来場者を増やすには無料フッ素塗布のような目玉企画がやはり必要。先ほど案が出ていたが、握力測定などの体力測定は良い企画だと思う。
議 長	体力測定はたしかに良い企画である。健康運動指導士会にぜひ提案していきたい。他に目玉企画になるような良いアイデアはないか。
委 員	SOSのステーションになっている団体に出展を依頼してはどうか。
事務局	ステーションへの依頼は実施している。出展団体のほとんどがステーションである。
委 員	フェスタに誰を呼ぶのかという対象者を明確にすると出展団体も出展しやすい。
議 長	対象者を決めることは大切であるように思う。 他に意見等ないか。
委 員	医師会の身近な先生に講演を依頼するという案は良いと感じた。
議 長	講演のテーマは何が良いか。
委 員	今回は骨密度がテーマだったが、他のイベントと重なっていた事が問題であった。
事務局	来年度は文化ホールも会場として押さえている。 案の段階ではあるが、両医師会の先生方に専門としているテーマで講演を依頼したいと考えている。
委 員	去年は骨密度、一昨年は血管年齢を測定した。血管年齢は測定に時間がかかるため今年実施しなかったが、来年度実施できれば目玉企画になる。
議 長	次にスタンプラリーについて何か意見等ないか。

	<p>最も多くの来場者の滞在時間が1～2時間であることは良い結果だと思う。</p>
委員	<p>「スタンプラリーはどうだったか」というアンケートの中に「やり方に問題あり」と答えた出展団体が2つあるが理由はなにか。</p>
事務局	<p>「次にどこに行けばスタンプがあるのかが分かりにくかった。」「スタンプを押すのが大変であった。」という意見があった。</p>
議長	<p>昨年よりもスタンプラリーの実施方法を工夫したが、まだまだ改善の余地がある。</p>
委員	<p>今回のブースは4人で血圧や体脂肪の測定を実施した。130人もの来場者があった。このため、スタンプが1個では足りなかった。また、人員不足で測定後の相談等も出来なかった。来年度は増員だけでなく、他のブースと協力し合って取り組みたい。</p>
事務局	<p>スタンプラリーについては来年度も事前に参加するかどうかのアンケートを取らしていただくので、各団体で実施するかどうか検討して頂きたい。</p>
委員	<p>他の出展団体と協力するのは大変良いこと。</p>
事務局	<p>出展者説明会等でぜひコミュニケーションをとっていただき、実現していただきたい。</p>
議長	<p>健康フェスタ全体を通して何か意見等ないか。 来年度の健康フェスタは1,000人目指してがんばろう。</p>
	<p>(2) SOS 健康づくり計画中間評価の進捗状況について 事務局より、資料2の説明。</p>
議長	<p>何か意見等ないか</p>
委員	<p>小野田工業高校とサビエル高校にアンケートを依頼したとあるがこの2校を選んだ理由はなにか。</p>
事務局	<p>男子生徒と女子生徒という主旨で選んだ。</p>
事務局	<p>他高についてはアンケートのお願いの時期がセンター試験の時期と重なったため、この点も考慮した。</p>
議長	<p>市民が作ったこの計画が中間評価でどのような結果となるのか非常に楽しみである。</p>
	<p>(3) 平成25年度事業計画 すこやか山陽小野田について 事務局より、資料3の説明。</p>
議長	<p>昨年と比較して大きく変わった点をもう一度説明していただきたい。</p>
事務局	<p>母子保健係についてはマタニティスクールを3回コースから2回コースにし、体験形を取り入れた。 マタニティスクールでの歯科保健、育児学級での歯の体験、1歳6ヶ月健診での実技指導など歯の健康についてはそれぞれの取り組みで年齢に応じて指導する予定である。 不妊については人工授精の助成期間が変わった。また、特定不妊については助成額が変わった。</p>

議 長	人口受精の助成期間が2年から5年に延び、特定不妊の助成額は7万5千円が上限になった。
議 長	成人保健係について大きく変わったところはないか。
事務局	6、7頁に検診期間(6月1日から1月31日)を入れる。24年度までは胃がん検診のみ10月末までとなっていたが、25年度は他の検診と同様の期間で実施する。
議 長	健康企画係については何かあるか。
事務局	講座の回数の変更また、25年度すこやか山陽小野田へは講座内容を詳しく掲載しているが、内容の大きな変更点はない。
議 長	年越しスリムコース等は新しい取り組みでおもしろい。 何か意見等ないか。
委 員	最近は喫煙をやめることが出来ない親が増加している。マタニティスクール等でしっかり禁煙を勧めてほしい。受動喫煙についても同様に指導してほしい。
事務局	妊娠届け出の面接で喫煙者には本人だけでなく、家族の禁煙も勧めている。
委 員	注意喚起程度ではなく、必ず喫煙をやめるようにさせてほしい。データ等を見せ、妊婦の喫煙がいかにも子どもに毒かを教えることが大切。同居家族もやめさせるようにする。受動喫煙も大変子どもに害を与えるため徹底してほしい。
委 員	母子保健推進員は赤ちゃん訪問、母子訪問等で、すこやか山陽小野田を持参し、妊婦にはマタニティスクール等の紹介し、赤ちゃん訪問の際には育児学級、子育て輪作りサークル、1歳6ヶ月健診や3歳6ヶ月健診の案内をする。現在の原稿案だと開催場所が分かりにくい。
事務局	現在決まっている開催場所については、色分けし分かりやすくする。しかし、厚狭地区再編の影響で開催場所の変更の可能性がある。
事務局	現段階では厚狭地区の再編計画のため、開催場所等を明確に決めることが出来ない。 ただし、直近の広報誌で場所・時間等は必ず市民の方々へ伝える。どうか御理解いただきたい。
委 員	6、7頁が見開きになったことで内容は変わったか。
事務局	24年度の8、9頁の内容を見開きにしてより見易くしたものである。
委 員	市民の中にはすこやか山陽小野田をファイリングして保管する方もいるため、ファイリングする際に見えにくくならないように配慮してほしい。
事務局	校正の段階で配慮する。
議 長	見開きにしてより見易くするというのは、受診率を少しでも上げたいという熱意のあらわれに感じる。 6、7頁について他に意見等ないか。
委 員	4頁と5頁は内容を考えても入れ替えたほうが良いのではないか。
事務局	入れ替える予定である。

委員 事務局	後期高齢者に対する健康診査での問診は以前と変化はないか。 問診は以前の特定高齢者選定用質問の同時実施ではなくなったので、診察に伴う医師が行うものである。
委員 事務局	7頁の無料クーポンの説明は6頁にレイアウトを変更したほうが良い。 参考にさせていただく。
委員 事務局	総合健診はすべての健診を受けることが出来るとあるが、これでは時間が大変長くなるのではないか。 受診者が受けたい健診の項目を選択できる。すべての健診を必ず受診するというわけではない。
委員 事務局	定員になり次第とあるが何人か。 実施される健診の項目によって定員は変動する。乳がん検診等であれば30から40人、特定健診等であれば80人から100人など幅がある。
委員 事務局	検診キャラクターは今年度はすこやか山陽小野田に載せないのか。 イラスト等については内容決定後検討する。
委員 事務局	健康相談は何名くらいの利用者があるか。 それぞれの保健センターで月に一回づつ実施しているが、健康相談の利用者は一桁台である。毎月、定例のように来られる方もいれば日々のウォーキングコースの一部にしている方もいる。
委員 事務局	地域に出張しますとあるが件数はどの程度か 春と秋での実施件数が多い。23年度の実績でいえば実施回数は100回程度である。延べ1,800～1,900人の利用者がある。
議長 委員 事務局	10頁から11頁について何か意見等ないか。 健康推進員は何名程度いるのか。 300名程度である。
委員 事務局	健康推進員の名簿はあるのか。 事務局で把握している。
委員 事務局	健康推進員に年齢制限はあるか。 年齢制限はない。
委員 事務局	今年度まで2年間で健康推進員を育成してきたが、6回の講座に減少させることで内容が不足することはないか。 今年度までは1年目は健康増進課で考えたカリキュラムを10回こなしていただき、2年目はそれぞれのグループで活動内容を考えていただくというコースであった。本来、推進員活動は地域で行うものなので仲間づくりのためにも2年間かけていたが、現在はそれぞれの校区に健康推進員がおり、すでに受け皿がある。地域ごとに健康推進員としてどのような活動をしていくべきかを考えて活動していただきたいと考えている。
委員 事務局	300名程度いる健康推進員の維持、リフレッシュ等を目的とした講習、取り組み等は実施を考えているか。 市内全域で行う研修、地域で行う行事等に事後講習として呼びかけを

	<p>したり、健康推進員に地域の方と一緒に楽しめるような行事の企画、呼び込み等を実施していただいたりすることで維持、リフレッシュ等の取り組みにしたいと考えている。</p>
<p>議長 委員</p>	<p>すこやか山陽小野田全体を通して何か御意見等あるか。 表紙の最優秀作品のところは「第3回健康フェスタ最優秀作品」としたほうが分かりやすい。</p>
<p>事務局 委員 事務局</p>	<p>そのようにさせていただく。 今年度は広告があったが来年度はないのか。 広告募集はかけたが応募がなかった。</p>
	<p>(4)子どもの歯科保健の現状及び対策についての意見交換 事務局より、資料4の説明。</p>
<p>議長 委員</p>	<p>本日は歯科を専門とされる方がいるのでぜひ御意見いただきたい。 虫歯とは歯に穴が開いているということ。虫歯になるには4つの要素(歯がある、細菌がある、ショ糖、時間)がある。この4つの要素が全て重なってはじめて虫歯になる。虫歯にはC0からC4まで段階があり、どの段階のものが多いのかという部分も考慮しなければならない。</p>
	<p>本市の齲歯の状況は1歳6ヶ月健診では齲歯のない者の割合は97%で比較的多い。しかし、3歳6ヶ月健診では齲歯のない者の割合は67.9%と減少する。これは1.7歳から2.7歳までが最も細菌が繁殖しやすい時期であることが理由として考えられる。この時期にしつかり予防することが大切。5歳、12歳、中学生と齲歯のない者の割合は減少していき、永久歯における齲歯のない者の割合は県内最下位という状況である。</p>
<p>委員 委員</p>	<p>ぜひ、みなさまの良い御意見をいただきたい。 虫歯が多いということは歯磨きをしていないという事か。 歯磨きをしていないという事ではない。歯磨きをしているが虫歯になっている。</p>
<p>委員</p>	<p>ご飯をだらだら食べることが虫歯につながる。歯は一度脱灰し時間をかけて再生する。ご飯をだらだら食べると再生する前に脱灰してしまい、脱灰が続くことで虫歯になる。例えば、1人目の子どもは虫歯が少ないが、子どもが2人、3人と増えていくと虫歯になる割合が増加することがある。これは親が子ども1人1人にかける時間が減少し、忙しいので子どもを静かにさせる手段として食べ物を与えるケースがあり、歯の再生を妨げてしまうため、結果的に虫歯になる。また、忙しいため歯医者に連れて行く時間も無い。</p>
<p>委員</p>	<p>毎日決まった時間に食事をする事が大切。おやつも食べて良いが時間を決めて食べるようにする。 両親に虫歯の予防についての知識がないと予防は難しい。虫歯の原因となる細菌は睡眠時に繁殖するため、睡眠前のジュース等は避けるべき。</p>
<p>委員</p>	<p>ここまで分析が出来ているならば何か対策を実施できないか。</p>

<p>委員</p>	<p>防府市ではフッ素を実施していると聞いたことがある。</p> <p>防府市もフッ素の取り組みを実施しているが、光市の取り組みも効果をあげている。光市は山口県でフッ素の導入をいち早く始めた市である。小学校からフッ素塗布を実施し、効果が出ている。フッ素の効果が中学生になると顕著にあらわれている。これから見てもフッ素塗布は有効であるといえる。</p>
<p>事務局</p>	<p>だらだら食事を取ることが虫歯の原因になるということだが、食べる間隔を何時間程度取ると良いのか。</p>
<p>委員</p>	<p>歯の再生(PH5.5に戻る)速度は個人差がある。唾液の量やエナメル質の厚さも関係してくる。このため、一般的に何時間食事の間隔を空けるべきかという基準を定めることは難しい。やはり、朝・昼・晩と決まった時間に食事をする習慣をつけることが大切。</p> <p>また、あごを強くしようとして子どもに急に硬いものばかり食べさせる事は逆効果である。少しずつ硬いものを食事に増やしていくことで与えるようにしてほしい。</p>
<p>委員</p>	<p>子ども達の多くは学校等で決まった時間に昼は給食を食べる。このため、だらだら食事を摂ることになるとすれば家庭にいる時ではないか。</p>
<p>委員</p>	<p>家庭ではショ糖や歯垢の付きやすい物を食べる機会が多いと思う。正しいブラッシングを心がける必要がある。仕上げ磨きも小学校高学年までは実施すべきである。</p>
<p>議長</p>	<p>このたび初めて山陽小野田市の齲歯の状況を知って大変驚いた。この状況を保護者の方々は知っているのだろうか。</p>
<p>委員</p>	<p>おそらく知らない。この状況をしっかり報告していくことも必要。</p>
<p>委員</p>	<p>一度虫歯になっても治療して完治すれば虫歯の無い者と診断されるのか。診断基準によっては虫歯の予防に力をいれるのか、虫歯になったら出来るだけ早く歯医者に行かせることに力をいれるのかなど対策に違いがでる。</p>
<p>委員</p>	<p>虫歯になったが完治している場合は処置歯とされ虫歯とは区別して診断される。</p>
<p>委員</p>	<p>子どもは泣くことが多く歯医者に連れて行っても治療がしにくい。</p>
<p>議長</p>	<p>虫歯の問題については専門家の知識が必要であることがよく分かった。歯科医師会が中心となって取り組んでいただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>幼児健診等で親に虫歯について指導すれば良いのではないか。</p>
<p>委員</p>	<p>1歳6ヶ月健診、3歳6ヶ月健診では歯についての指導をすでに実施している。単に口頭で説明するわけではなく、1人1人に正しいブラッシング方法などを実践して指導している。</p>
<p>委員</p>	<p>光市は1年生から6年生まで給食後のブラッシング後、フッ素洗口を実施している。下関市は小学校1年生から6年生まで春と秋の二度、希望者に200円から300円程度でフッ素塗布を実施している。このような取り組みを実施しているため、中学生になっても歯を大切にしている習慣が身につけており虫歯の予防に効果がでている。</p>
<p>委員</p>	<p>山陽小野田市でも公民館等の活動、広報誌等で歯の大切さについて伝</p>

	<p>える機会を設けてほしい。小学校6年生までは乳歯が残っている生徒もいるため仕上げ磨きは必要である。しかし、実際はなかなか実行していただけないのが現状。</p>
議 長	<p>ぜひ市内全体で取り組み齲歯の問題を改善していきたい。</p>
委 員	<p>健康フェスタで歯科医の先生に講演を依頼してはどうか。</p>
委 員	<p>歯を大切にしないことがいかに恐ろしいことであるのかを伝え、危機感を持たせるようにすることも大切なのではないか。</p>
事務局	<p>市長もこの結果には危機感を持っている。教育長にも学校等に働きかけをし、改善するように指示を出している。学校への働きかけは教育委員会、親御さんへの働きかけは健康増進課で実施していきたい。</p>
委 員	<p>子どもたちの中で虫歯が無いことを競い合うような環境を作ることが出来れば良い。</p>
委 員	<p>虫歯の無い子と親を表彰するような企画があれば改善にもつながる。</p>
	<p>(5) その他 意見なし。</p>
議 長	<p>本日は良い意見がたくさん聞けたように思う。全体をとおして何か御意見等ないか。</p>
3. その他	
事務局	<p>次回開催予定を決めたい。 次回平成25年7月頃の開催を決定させていただく。詳しい内容については後日御報告させていただく。</p>
	<p>健康増進課長 あいさつ</p>